

行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569
東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 馬場研究室内
Tel 03-5421-8739 (直通)
Fax 03-5421-8796

「行動計量学」とは何か

竹村和久

行動計量学会に入会して20年目を迎えました。大学院の先輩から「面白い学会があるよ」と聞いて、「行動計量学」というのがどんなものかあまりわからないまま学会大会に参加して、すぐに入会してしまったのを思い出します。その当時、すでに学会が発足して10年は経っていたようですが、学会参加者の熱気を感じました。林知己夫先生をはじめとして、綺羅星のような先生方のホットな話を聞け、また、多岐にわたる分野の大学院生や研究者とも気楽に話ができたりして、新鮮な感覚と興奮した雰囲気がみなぎっているように感じたのは確かです。

現在の大学院生にとって行動計量学会はどのような存在なのでしょう。最近何人かの大学院生と話す機会をもちました。彼らは本学会に参加することに十分な意義を見出しているようでしたが、学会に参加することで新鮮な気持ちを感じたり、多岐にわたる分野の研究者から珍しい知見を得られたりするとは思ってはいないようでした。これには、「行動計量学」自体がエスタブリッシュしたことが関係していると思います。結果として、行動計量学に関与する教員数も増え、書物も多く出版され、また、大学院生がこの分野のことをよく勉強するようになったので、彼らが新鮮に感じるものがあまりないと言うのも当然だと思います。

「行動計量学」という学問分野がエスタブリッシュするというのは、大変結構なことだと思います。学生の教育も進展しますし、ピアレビュー制度が確立するので、学会の論文のレベルも均質化され、ある一定のレベルを保証することが期待されます。しかし、制度化されるこ

とによる副作用も少しはあるかと思います。このことに関連して、最近、本学会に参加したことがある研究者数人に、「行動計量学」や「行動計量学会」のイメージを聞いた結果を報告させていただきます。彼らとのインタビューでは、誰もが「行動計量学」が「多変量解析」や「データ解析」などの方法論の学問であろうということを描いていました。また、「行動計量学会」も、「分析法の開発に凝っている研究者達の間」というイメージが定着しており、固有の対象領域を持っている研究者からすると、少し距離を感じるということでした。学会のホームページをみると、「日本行動計量学会は、最も広い意味での人間の行動に関する計量的方法の開発と、その様々な分野への適用について研究すること、計量的方法の普及ならびに研究者相互の連絡・協力を促進すること、研究成果を社会に還元すること、を目的とする学会です。」と書かれていますが、「行動計量学」がエスタブリッシュしてしまったことが、この後半の目的達成を抑制している側面もあるようです。

以上のような問題は、これまでの会報や学会での大会でも多くの方々がそれとはなく言及されていたことだと思います。この問題解決のために、「統計ユーザーとメーカーとの対話」、「講習会やチュートリアルでの統計教育の徹底」、「他学会との大会協賛や公開シンポジウムの実施」などのアイデアや対策が出されているのだと理解しています。私は、これらのことに加えて、「行動計量学」とは何なのか、あるいは「行動を計量する」ということは一体何なのかということ、人文科学者、社会科学者、工学

者、数理科学者など多くの人々を交えて改めて問い直す作業が必要ではないかと思っています。人間の行為は、意思決定問題のフレーム(心理的枠組)に依存していることを、近年の意思決定研究が明らかにしています。このことを敷衍すると、「行動計量学」という学問の定義の仕方やフレームの仕方が「行動計量学」の方向性や「行動計量学会」のこれからの発展を規定する側面があるかと思います。

私見にすぎませんが、「行動計量学」を「方法論」の学問と規定するのは、少し狭い見方だと思っています。学問上の問題解決にしても、実際の問題解決にしても、方法論の工具箱があってその中から適当な道具(方法)を取り出したらOKというようなことはあまりないと思います。いろいろな学問分野で優れた方法論が提案されていますが、優れた「方法」は「適用」するのではなく、問題解決の中でむしろ生み出されることが多いように思います。「方法」と「対象」は、分離できるものではなく、むしろ木の根のように絡み合っています。その意味でも、「行動計量学」という学問の定義をもう少し、広くとって見たらどうかと思います。「行動計量学」の定義自体は、時代とともに変化してしまうのですが、この問い直しの作業、すなわち、「リフレーミング」が、「行動計量学」の新しい研究の方向性を生み出す契機になればと思います。

最後になりますが、昨年ご逝去された林知己夫先生の言葉を引用して、この巻頭言を締めくくらせていただきます。

「「行動計量学とは何か」ということがまず問われることになるが、これを厳格な意味で定義づけることは困難なことである。厳密に定義すればするほど、その内容がとらえどころのないものになってしまう。しかも、行動計量学は、一通りの守備範囲としての境界はあるものの、絶えず膨張し続ける開集合と考えてよいものである。ここに発展の動因があるわけである(林知己夫著 1993 行動計量学序説 朝倉書店 一頁)」

(たけむらかずひさ、早稲田大学文学部、行動計量学会理事)

当選理事による理事長および 追加理事選出のための会合議事録

日時：平成 15 年 3 月 17 日 午後 6 時～8 時

場所：統計数理研究所 254 号室

出席者：飽戸 弘，朝野熙彦，岩崎 学，岩坪秀一，狩野 裕，齋藤堯幸，繁樹算男，杉山明子，竹村和久，豊田秀樹，林 文，前川真一，丸山久美子，村上征勝，柳井晴夫，山岡和枝，吉野諒三，渡辺美智子

委任状 7 名：池田 央，今泉 忠，大隅 昇，岡太彬訓，上笹 恒，高木廣文，村上 隆

議事

1. 理事長選挙

選挙方法について意見交換の後、内規に従い選挙を行い、杉山明子理事を理事長に選出した。

2. 追加理事の選出

選出方法について意見交換の後、分野地域を考慮して足立浩平、江島伸興、菊地賢一、馬場康維、水田正弘の 5 名を追加理事として選出した。

3. 2003 年度第 1 回理事会で、新旧理事の引継ぎをすることとなった。また、その日までに、理事長が理事の役職を決めることとなった。

平成 15 年度 第 1 回理事会議事録

日時：平成 15 年 4 月 21 日 (月) 18:00 - 20:00

場所：統計数理研究所 会議室 (2F 所長室前)

議題：新旧理事の顔合わせ

出席：杉山明子(理事長)，池田央，今泉忠，岩崎学，岩坪秀一，岡太彬訓，狩野裕，繁樹算男，林文，馬場康維，前川真一，丸山久美子，村上征勝，柳井晴夫，山岡和枝，吉野諒三，渡辺美智子 (以上 17 名)

記録：渡辺美智子

杉山理事長の議事進行により、以下の協議、報告が行なわれた。

1. 杉山理事長より、理事長、追加理事リストの紹介と理事担務報告がなされた。また、各委員会に、副委員長をおくように要請された。社会調査士設立準備委員会へ、日本行動計量学会として

- 今年度4月より代表して出席する委員は、理事長＋3名であることが確認された。
2. 新旧理事会の引継ぎ（各担当理事より）
- ・杉山理事長から学会としての検討事項が説明された。
 - ・岡太理事より、組織検討委員会の引継ぎ事項が説明された。
 - ・繁榊理事より、編集委員会の引継ぎ事項が説明された。
 - ・林理事より、和文誌編集委員会の引継ぎ事項が説明された。
 - ・狩野理事より、欧文誌編集委員会の引継ぎ事項が説明された。
 - ・村上理事より、本年度の科研費の出版助成が得られたこと、出版の見積もりが必要なことが説明された。また、狩野理事より著者が会員であるという投稿規程の改定の必要性が説明された。
 - ・山岡理事より、運営委員会の引継ぎ事項が説明された。また、広報理事に代わって、広報委員会の引継ぎ事項が説明された。
 - ・岩坪理事より、大会担当の引継ぎ事項が説明された。また、大会会費の決定は、開催校に一任されていることが確認された。
 - ・柳井理事より学会史編集に関し、今後、委員会を設置して取り組むことが表明された。
 - ・村上理事より、事務局からの引継ぎ事項として、会費未納者や会員資格の確認などが指摘された。
3. 繁榊理事より、欧文誌より和文誌の投稿数が多いこと、採択率の違いなどが指摘された。
4. 渡辺理事より、大会での連合大会との合同保育室設置の準備状況が報告された。
5. 馬場理事より、第46回自動制御連合講演会参加学協会からの協賛依頼があったことが報告された。
6. 馬場理事より、次回以降の連合大会に関して意見が求められたことが報告された。
7. 杉山理事長から、馬場理事、岡太理事に対して、次回以降の連合大会準備委員会に出席要請があった。
8. 次回理事会は5月12日、次回までに、各委員長は、委員会メンバーと副委員長を決めておくことが要請された。
9. 会員名簿に委員の名前の掲載をするように学会事務センターと連絡をとることとした。
10. 日本学術会議に当学会から候補者として届け出た二人の候補者（杉山理事長（行動科学）、柳井理事（統計学））が日本学術会議会員となる資格を有すると認定された旨、事務局から報告があった。
11. 吉野理事より、(3月末に社会調査士制度設立準備委員会に出席した狩野委員からの情報とし

て) 今年度9月に設立される同機構に、行動計量学会としての割当金拠出の検討依頼が来ていることが報告された。

12. 工藤昭夫先生のご逝去に関して、過去に学会編集委員であったことから会報に何らかの掲載が必要なことが指摘された。

日本学術会議報告

統計学研究連絡委員会

委員長 吉村 功

1. 学術会議総会

第18期最後の総会が2003年6月2－5日に開かれました。7月下旬には、第19期が発足します。統計学研究連絡委員会の新しい世話担当会員は、柳川堯（九州大学）教授の予定です。第19期は任期（3年）の途中で中断され新しい体制になる予定で、すでに制度変更のための法律整備が進んでいます。

学術会議は、学者の国会といわれるように、学・協会等、学問の研究者組織とされているところから推薦された人を、総理大臣が（特別公務員である）学術会議会員に任命します。学術研究者は、その職務を、研究者の見識を政府の政策に反映させ、政策に指針を与えたり、研究者間の学術的交流を進めたり、外国の類似組織への対応窓口を用意するものと考えてきたと思います。

「総合科学技術会議」は（政府決定として）学術会議の果たすべき機能を、政策提言機能、科学に関する連絡調整、社会とのコミュニケーション機能、であるとしています。改革は、現在の制度がこの機能の展開に適当でないという政府の判断、学術会議運営審議会の判断等によっているようです。細部の決定はこれから1年半の間になされるでしょうけど、任期6年（3年ごとの半数改選）、70歳定年、co-optation制度（教授会が補充する教授を選考するようなやり方）、研連の廃止、等が予想されています。

現会長は、外国に対し「日本の科学者コミュニティ」として機能させたいということを再三にわたって発言していますので、一般学者からの代表推薦というより、権威ある学術会議が学問的業績を認定し、その眼鏡にかなった人を集団の構成員として選びたい、ということのようです。改革は「成果を挙げた偉い人(scholars of distinctive merit)の集まり」としての学者集団という色彩が強くなりそうです。

2. 統計学研究連絡委員会

今期、統計学研究連絡委員会は、科研費審査員候補の推薦といったルーティンワークの他に、統計学関連学会の協調という目的を追求してきましたが、

結果として成果を上げるに至りませんでした。これはひとえに小生の能力の故であり、小生が2期でやめることを決意したのもそのためです。退任に当たり、関連学会の期待に応えられなかったことをお詫びいたします。

以上

組織検討委員会委員長 をお引き受けして

鮎戸 弘

このたび、組織検討委員会委員長を勤めさせていただくことになりました。会報、前号に掲載された、新委員長・担当理事の方々の“ご挨拶”を拝読して、皆さんの並々ならぬ意欲を感じ、身の引き締まる思いを持ちました。

学会の日常活動を担当するいわばラインに当たるのが、編集委員会、運営委員会、広報委員会そして事務局などで、組織検討委員会はそれらを総合して、全体のバランス、長期展望などを考える、いわばスタッフの役割と言えるでしょう。各委員会がより活動しやすくなるように、側面から援助してゆくことも重要な仕事でしょう。

そういう意味では、小生は、学会創立以来、あまり活動的でない理事として、ずっと名を連ねてきましたが、そろそろ最後の仕上げとして、何か学会のために貢献せよ、というのが、理事会のご意向かと思えます。当学会のいままでの経緯、また他学会についても、年の功で、いろいろ存じ上げていることでもありますので、若い皆さんのご意見などもよく伺って、学会の現在の組織だけでなく、将来展望などについても考えて行きたいと思っています。

前委員会では、理事選挙について、理事の高齢化、理事の再選・多選の問題、女性会員の参加・活躍など、検討して来られたようですが、そうした点では、本学会は他学会に比べても、とても順調に推移しているように思います。特に無理な選挙制度の改革などをしなくても若い理事が順次加わっており、女性理事、女性会員の活躍も、目覚ましいものがあります。そういう意味では、緊急に改革すべき制度はあまりないので、むしろ長期的展望を、少し時間をかけて、考えて行きたいと思っています。

何よりも、各委員会が少しでも活動しやすい組織、制度を、全体のバランスの上で、考えてゆくことが任務ですので、各委員会の要望などを伺いながら、改革すべき制度、維持すべき組織について、検討して行きたいと思っています。ご忌憚のないご意見、ご提言を、お待ちしております。

広報活動について

広報委員会委員長
菊地賢一

前期に引き続きまして、今期も広報を担当することとなりました。まず、今期は、広報活動を行うための組織が変わります。前期までは、運営委員会の中のワーキンググループとして活動を行ってまいりました。しかし、最近では、Webを使った広報活動などもはじまり、カバーする範囲が広がってきました。そこで、今期からは、運営委員会から独立し、単独の委員会として活動を行うこととなりました。とはいっても、実際には、運営委員会をはじめ各委員会と連絡を取りながら、活動を行ってまいります。

また、今期中には、これまで行ってきた会報の発行に加えて、会員向けに情報配信を行うためのメーリングリストサービスを開始する予定です。形としては、いわゆるメールマガジンのような形をとる予定です。内容としては、大会、シンポジウム、セミナーなどの案内、各委員会からのお知らせ、学会Webページの更新情報などをお送りする予定です。郵便を使ったサービスよりも、速報性を高めることができますので、会員の皆様のお役に立てるものと思います。会員名簿の更新の際に、メールアドレスなどの情報をご登録いただくことになるかと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

メーリングリストに限らず、広報活動は、会員の皆様のご協力により成り立つ部分が多いと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

社会調査士の認定機構の 設立について

理事長 杉山明子

社会調査の重要性が認識されている現在、「社会調査士」の認定機構を設立すべく、三学会（日本社会学会、日本教育社会学会と日本行動計量学会）が協力して検討を進めております。その状況をお知らせするためのホームページ

<http://www.soc.nii.ac.jp/jcbsr/>

ができましたのでお知らせします。なお、日本行動計量学会のホームページからもリンクがはってあります。

この件についてご意見があれば、何なりと理事長あるいは担当理事（岡太、狩野、吉野）あてにお寄せください。

運営委員会よりお知らせ

☆ **第 31 回大会 チュートリアル・セミナー** ☆
第31回大会時に、下記の要領でチュートリアル・セミナーを開催します。奮ってご参加下さい。

題目：Web 調査の現状と課題

ー調査誤差の分類と対処の観点からー

講師：吉村 幸（大学入試センター）

形式：講義（一部実演、教材は当日配布）

日時：2003 年 9 月 3 日（水）9:30 ～ 12:00

会場：名城大学天白キャンパス

（名古屋市中天白区塩釜口 1 丁目 501 番地）

定員：70 名（先着順）

申し込み方法等の詳細は、大会プログラム内に記載されています。また、下記のページもご参照下さい。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/bsj31tutorial-Web.html>

主催：日本行動計量学会運営委員会

企画担当：加藤元宣（NHK）、前田忠彦（統数研）

照会先：E-mail: mkato@culture.nhk.or.jp,

maeda@ism.ac.jp, Tel: 03-5421-8734

☆ **第 79 回行動計量シンポジウム** ☆

岡山地域部会が中心となって、下記のシンポジウムを企画しました。近辺の会員はもちろん、広く全国からの参加を呼びかけます。奮ってご参加下さい。

テーマ：地域・地理・図形情報とデータ解析

日時：2003 年 10 月 4 日（土）11:00 ～ 17:00

会場：岡山大学 創立五十周年記念館

担当：行動計量学・岡山地域部会

共催：岡山統計研究会

詳しくは別紙の案内をご覧ください。また下記に詳しい情報が掲載されています。

http://mo161.soci.ous.ac.jp/bsj_okayama/79/index.html

照会先：岡山理科大学 総合情報学部 森 裕一

E-mail: mori@soci.ous.ac.jp

関連学会等カレンダー

※注意：本コーナーの情報は、幅広い専門分野にわたる会員の皆さまに、なるべく多くの催し物の存在をお知らせするために編集担当側で収集・要約したものです。プログラムや参加方法については、必ず各催事末尾に掲載の「照会先」にご確認下さい。

<学会大会等>

☆ **日本看護技術学会 第 2 回学術集会**

会 期：2003 年 9 月 13 日（土）、14 日（日）

会 長：武田利明（岩手県立大学教授）

会 場：岩手県立大学（岩手県）

照会先：岩手県立大学看護学部内

日本看護技術学会第 2 回学術集会 事務局

専用 Tel: 070-5470-7338, Fax: 019-694-2201

E-mail: jsnas-iwate@iwate-pu.ac.jp

大会の URL:

<http://www-nurs.iwate-pu.ac.jp/jsnas2nd/JSNASIndex.html>

学会の URL:

<http://homepage3.nifty.com/JSNAS/index.html>

☆ **日本心理学会第 67 回大会**

会 期：2003 年 9 月 13 日（土）～ 15 日（月）

会 場：東京大学本郷キャンパス

照会先：日本心理学会第 67 回大会準備委員会

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部心理学研究室内

Tel: 03-5841-3861, Fax: 03-5841-8969

E-mail: jpa2003@L.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://www.L.u-tokyo.ac.jp/jpa2003/>

☆ **第 4 回日本認知言語学会（2003 年度）全国大会**

会 期：2003 年 9 月 14 日（日）、15 日（月）

会 場：明治学院大学（東京都港区高輪）

照会先：日本認知言語学会事務局

〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1

慶應義塾大学新研究棟 辻 幸夫研究室気付

E-mail: jcla@nifty.com

URL: <http://homepage2.nifty.com/jcla/>

☆ **日本社会心理学会第 44 回大会**

会 期：2003 年 9 月 16 日（火）午後～ 18 日（木）

会 場：東洋大学白山校舎

照会先：日本社会心理学会第 44 回大会準備委員会

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学社会学部社会心理学科内

Fax: 03-3945-7626, E-mail: jssp2003@soc.toyo.ac.jp

URL: <http://www.soc.toyo.ac.jp/psych/jssp2003/index.html>

☆ **第 36 回数理社会学会大会**

会 期：2003 年 9 月 20 日（土）、21 日（日）

会 場：慶應義塾大学（三田キャンパス）

照会先：大会事務局:

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学文学部 織田輝哉研究室気付

Tel: 03-5427-1158, Fax: 03-5427-1578

E-mail: teruya@flet.keio.ac.jp

URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams/japan/conferen.html>

☆ 日本テスト学会第 1 回大会

会 期：2003 年 10 月 4 日（土）
 会 場：東京大学 駒場キャンパス 数理科学研究科棟
 内 容：個別発表，基調講演「学会が目指す三つの柱」（池田 央理事長），公開シンポジウム「これからの社会に役立つテスト技術」（企画：池田 央，繁樹算男）
 照会先：日本テスト学会第 1 回大会実行委員会
 E-mail: test@bayes.c.u-tokyo.ac.jp
 Tel & Fax: 03-5454-6186
 URL: <http://bayes.c.u-tokyo.ac.jp/~JART2003/>

☆ 日本教育工学会第 19 回全国大会

会 期：2003 年 10 月 11 日（土），12 日（日）
 会 場：岩手県立大学
 〒 020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52
 Tel: 019-694-2000（代）
 内容（抜粋）：シンポジウム「教育工学の研究方法を探る」同「教育の情報化」における諸外国の現状と特徴の比較～我が国の「情報化」を進めるために～
 照会先：日本教育工学会 大会企画委員会
 E-mail: jet2003@mr.hum.titech.ac.jp
 URL: <http://www.japet.or.jp/jet/convention/conv2003/index.html>

☆ 第 76 回日本社会学会大会

会 期：2003 年 10 月 12 日（日），13 日（祝）
 会 場：中央大学
 照会先：日本社会学会事務局
 〒 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
 東京大学文学部社会学研究室内
 Tel: 03-5841-8933, Fax: 03-5841-8932
 E-mail: jss@wwwsoc.nii.ac.jp
 URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/index.html>

☆ 第 5 回日本感性工学会年次大会・講演会

同時開催：第 4 回感性工学日韓合同シンポジウム
 会 期：2003 年 10 月 12 日（日）～14 日（火）
 会 場：独立行政法人 産業技術総合研究所 つくば研究センター
 テーマ：「21 世紀型産業技術に活かす感性」
 照会先：URL: <http://www.jske.org/>

☆ 第 23 回医療情報学連合大会

（第 4 回日本医療情報学会学術大会）

[日本行動計量学会協賛行事]

会 期：2003 年 11 月 22 日（土）～24 日（月）
 会 場：幕張メッセ国際会議場（千葉県）
 大会長：豊田 建 ベリングポイント（株）
 テーマ：医療を支える IT—医療情報の原点を考える
 照会先：大会事務局（担当：本間律子）
 〒 100-6223 東京都千代田区丸の内 1-11-1
 パシフィックセンチュリープレイス丸の内 23 階
 ベリングポイント株式会社内
 『第 23 回医療情報学連合大会事務局』
 Tel: 03-5293-1030, Fax: 03-5293-1170
 E-mail: ktoyoda@bearingpoint.biz
 URL: <http://www.2003jcmi.org/>

<シンポジウム・研究集会・講演会等>

☆ ISMシンポジウム「環境科学と統計科学の新たな融合」—環境マネジメントにおける統計科学の役割および貢献—

[日本行動計量学会協賛行事]

主 催：統計数理研究所
 共 催：（社）環境科学会
 日 時：2003 年 9 月 10 日（水）10:00～
 会 場：統計数理研究所 講堂
 （東京都港区南麻布 4-6-7 参加無料）
 照会先：統計数理研究所・統計科学情報センター・統計科学研究交流部 馬場康維・金藤浩司
 E-mail: ismsympo-environ@ism.ac.jp
 URL: <http://www.ism.ac.jp/ismsympo-environ/>

☆ 統計数理研究所公開講演会「予測と発見」

日 時：2003 年 11 月 5 日（水）13:30～16:30
 会 場：統計数理研究所 講堂
 （事前予約不要，入場自由）
 講演者とタイトル：1. データに潜む知を引き出すモデルと予測（樋口知之：統計数理研究所）2. 化学情報の統計・ソフトコンピューティング処理と実践的予測（佐藤寛子：国立情報学研究所）3. 地球規模変動解明をめざす極域科学研究における予測と発見（山内 恭：国立極地研究所）4. ゲノムや生命情報の解析に有用な統計数理的方法（池村淑道：国立遺伝学研究所）
 照会先：〒 106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7
 統計数理研究所 教育・情報室
 Tel: 03-5421-8720, 03-3446-1501（代）
 Fax: 03-5421-8720
 E-mail: edu-info@ssiws.ism.ac.jp
 URL: <http://www.ism.ac.jp/ciss/koukai-kouenkai.html>

☆ 第 6 回情報論的学習理論ワークショップ (IBIS2003)

日 時：2003 年 11 月 11 日（火），12 日（水）
 SMAPIP チュートリアル 11 月 10 日（月），ペイジアンネットセミナー 11 月 13 日（木），14 日（金）と連続開催
 会 場：ばるるプラザ京都（京都駅に隣接）
 開催趣旨：現在、広い意味での機械学習に関する理論体系が情報理論、統計学、統計物理学、計算機科学等の分野においてそれぞれの背景を反映させた形で形成され、またその応用が様々な形で実現されています。本ワークショップは電子情報通信学会 情報論的学習理論時限研究専門委員会が主催するもので、各方面で独自の発展を遂げている学習理論を総合的な視点から捉える場を設け、情報理論、統計学、統計物理学、計算統計学、機械学習、ニューロ、応用（画像、言語、複雑系、生体系、データマイニング、金融工学 etc）などの緊密な交流を企り、知識情報処理の新しい方向性を模索することを目指すものです。
 照会先：IBIS2003 実行委員会
 E-mail: support@ibis2003.org
 URL: <http://www.ibis2003.org/index.htm>

☆ 第 46 回自動制御連合講演会

[日本行動計量学会協賛行事]

会 期: 2003 年 11 月 27 日 (木), 28 日 (金)

会 場: 岡山大学 津島キャンパス

照会先: 〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1

岡山大学工学部システム工学科 井上 昭気付

第 46 回自動制御連合講演会事務局

Tel & Fax: 086-251-8233

E-mail: JACC2003@suri.sys.okayama-u.ac.jp

URL: http://qumi.sys.okayama-u.ac.jp/~JACC2003/

<日本で開催される国際会議>

☆ 国際シンポジウム “Science of Modeling”

—The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC) —

[日本行動計量学会協賛行事]

会 期: 2003 年 12 月 14 日 (日) ~ 17 日 (水)

会 場: パシフィコ横浜

組織委員長: 北川源四郎 (統計数理研究所長)

内 容: 以下のトピックスに関する一般セッション (招待講演のみ) とポスターセッション;

トピックス: Knowledge discovery in complex systems via modeling, Statistical modeling of spatio-temporal phenomena, Bayesian modeling for ill-posed decomposition problems, Progress in the AIC statistics

照会先: シンポジウム “Science of Modeling” 事務局

〒106-8569 港区南麻布 4-6-7 統計数理研究所内

E-mail: aic@ism.ac.jp

URL: http://www.ism.ac.jp/aic2003/index.html

<科研費等による統計数学関係シンポジウム>

※本記事は、数学会評議員白旗慎吾氏 (大阪大学) の、メイリングリスト stats への投稿記事からの抜粋です。

○ 2003 年度計画数学研究集会 基盤研究 B (2) 「ファジー決定過程における頑健性構造の理論と応用に関する研究」 (研究代表者: 中神潤一 (千葉大・理)) による研究集会

「不確実性下での数理決定問題とその関連分野」

研究分担者: 中神潤一 (千葉大)

吉田祐治 (北九州市立大)

日 時: 2003 年 10 月 17 日 (金), 18 日 (土)

場 所: 千葉大学 理学系総合研究棟

内容・目的: 計画数学に関する標記テーマについて最新の研究成果の発表と討論を行う。さまざまなモデルに対する新しい理論展開および応用例を歓迎する。

申込み期限: 2003 年 9 月 22 日 (月)

申込・照会先: 中神潤一

〒263-8522 千葉大学 理学部数学・情報数理学科

Tel: 043-290-2718, Fax: 043-290-2733

E-mail: nakagami@math.s.chiba-u.ac.jp

その他: 上記研究会は、基盤研究 B (1) 「不確実性の下での動的決定解析とその応用」研究代表者: 吉田祐治 (北九州市立大, E-mail: yoshida@kitakyu-u.ac.jp) と共同で行います。

○ (S 1) 「量子推測理論の数理統計学的基礎とその応用」

「基盤研究 A (1)」 (研究代表者: 赤平昌文, 課題番号 14204006) によるシンポジウム計画一覧 (平成 15 年度分) より抜粋

2. 数理統計学と計量心理学をつなぐ

研究分担者: 狩野 裕 (大阪大)

千野直仁 (愛知学院大)

日 時: 2003 年 11 月 3 日 (月) ~ 5 日 (水)

場 所: 大阪大学 人間科学部 東館 207 教室

(ユメヌホホール)

内容・目的: 方法論と実質科学は車の両輪であり互いに情報交換することでそれぞれの学問を発展させることができる。本シンポジウムは、実質科学として心理学や行動学などの社会科学を念頭におき、それらの分野におけるデータ科学的方法論を、数理統計学と計量心理学的立場から議論したい。

議論したいトピックは幅広く、(i) 反復測定データの分析、線形・非線形混合モデル、(ii) 因果推論、欠測データの分析、グラフィカルモデリング、構造方程式モデリング、(iii) 独立成分分析、多次元尺度法、因子分析などの多変量解析、などを考えている。また、問題提起、サーベイ、応用研究、数理統計学者から計量心理学者への提言、計量心理学者から数理統計学者への提言なども歓迎する。

講演申し込み期限: 10 月 10 日 (金)

申込・照会先: 〒565-0781 吹田市山田丘 1-2

大阪大学 大学院人間科学研究科 狩野 裕

Tel & Fax: 06-6879-8052

E-mail: kano@hus.osaka-u.ac.jp

3. 統計的推測の理論とその応用

研究分担者: 高田佳和 (熊本大・工)

岩佐 学 (熊本大・工)

日 時: 2003 年 11 月 17 日 (月) ~ 19 日 (水)

場 所: 熊本大学大学院自然科学研究棟 2 階ゼミナール室

内容・目的: 統計的推測に関する様々な理論や方法論、それらの新しい展開、その応用例についての発表と討論を行う。研究成果の発表だけでなく、これらに関わる最新の話題や研究の紹介、新たな問題の提起等の講演も歓迎します。

講演申し込み期限: 10 月 17 日 (金)

申込・照会先: 〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1

熊本大学工学部数理情報システム工学科 高田佳和

Tel: 096-342-3625, Fax: 096-342-3609

E-mail: takada@cs.kumamoto-u.ac.jp

4. データ解析のための統計科学理論

研究分担者: 白石高章 (横浜市大・理), 瀬尾 隆 (東京理科大・理), 加藤 剛 (慶應大・理工)

日 時: 2003 年 12 月 10 日 (水) ~ 12 日 (金)

場 所: 横浜市立大学よこはまアーバンカレッジ

〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-6-1

ゆめおおおかオフィスタワー 17 階

内容・目的: より小さなコンピュータと OS の発展により、多くの分野で統計データの解析が行われている。本シンポジウムでは、パラメトリック、ノンパラメトリック、セミパラメトリックを問わず、データ解析に有用な統計手法と理論について研究発表及び討論を行い、今後の研究の方向性について

て展望する。まだデータ解析に利用できるか不明であるが可能性のある統計手法の理論も歓迎する。また、研究成果に限らず、最新の話題の理論紹介も歓迎する。

講演申し込み期限：11 月 10 日（月）

申込・照会先：〒 236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学大学院総合理科学研究科数理科学部門

白石高章

E-mail: crystal@yokohama-cu.ac.jp, Tel: 045-787-2195

○（S2）「統計的領域推定における精確な推定方式の開発と実用化の試み」「基盤研究（B）」（研究代表者：赤平昌文，課題番号 12554002）によるシンポジウム計画（平成 15 年度分）より抜粋

1. 実験計画法とその周辺における組合せ的構造の解明とその応用

研究分担者：白倉暉弘（神戸大・発達科学）

葉田正秀（広島大・総合科学）

日 時：2003 年 12 月 4 日（木）～6 日（土）

場 所：白浜かんぼの宿

〒 649-2211 和歌山県白浜町 1688-2

内容・目的：統計的計画の考察から発展してきた実験計画法は、今日では離散数学あるいは組合せ理論の一部としても確立し、実験計画以外の分野への応用も盛んになってきた。本シンポジウムでは、実験計画法とその周辺に関する最新の話題やその推測理論に関する研究発表及び情報交換を行う。実験計画・デザイン理論の最適性、構成、推定方式に関する話題、またはその他への応用も歓迎する。

申込期限：10 月 27 日（月）

申込・照会先：〒 739-8521 東広島市鏡山 1-7-1

広島大学総合科学部 葉田（クワダ）正秀

E-mail: kuwada@mis.hiroshima-u.ac.jp

<チュートリアル類>

☆ 統計数理研究所公開講座

1. 統計数理要論 B「テキスト型データのマイニングとその応用」（20 時間）

日 時：2003 年 11 月 17 日（月）～20 日（木）

10 時～16 時

2. 統計数理特論「マルコフ連鎖モンテカルロ法—新しい展開と統計科学への応用—」（15 時間）

日 時：2004 年 2 月 23 日（月）～25 日（水）

10 時～16 時

いずれも詳細は、以下の Web サイトを参照。

<http://www.ism.ac.jp/ciss/koukai-kouza.html>

照会先：〒 106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7

統計数理研究所 教育・情報室

Tel: 03-5421-8720, 03-3446-1501（代）

Fax: 03-5421-8720

E-mail: edu-info@ssiws.ism.ac.jp

公募・求人情報

時期的に多数の公募がでております。本コーナーでは計量的手法や社会調査、統計学と関係が深いと思われる公募を中心に紹介します。

なお、研究者の公募情報は、例えば「研究者人材データベースシステム（JRECIN）」で参照することができます。URL は下記の通りです。ご活用をお勧めします。

<http://jrecin.jst.go.jp/>

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。

以下には上記 JRECIN に含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。原則として、本学会に直接広報依頼のあった公募については詳細に情報を記載します。

☆ 東京工業大学大学院社会理工学研究科

1. 募集分野：統計科学，応用統計学
2. 職名・人員：助手 1 名
3. 所属：経営工学専攻・財務経営工学講座・経営計算分野
4. 採用時期：平成 15 年 12 月 1 日
ただし、平成 16 年 3 月に博士取得見込みの方については、平成 16 年 4 月 1 日とすることもありえる。
5. 提出書類：履歴書と業績リストおよび主要論文の別刷
6. 応募期限：2003 年 9 月 12 日（金）
7. 書類提出・照会先：
〒 152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学・大学院社会理工学研究科・経営工学専攻 宮川雅巳
Tel: 03-5734-2247
E-mail: miyakawa@mail.me.titech.ac.jp

☆ 東北大学大学院文学研究科

1. 公募対象：21 世紀 COE プログラム研究員 6 名程度。
（本プログラムは、豊かな社会における「新しい不平等」の解明を目的とし、「社会階層と不平等の構造と変動」「マイノリティ」「東アジア」「公正」の 4 つの領域の有機的連携によって、研究教育を推進する。）
2. 応募資格：（1）博士号取得者または同等の研究能力を有する者（2）本プログラムと関連のある研究を行っている者、あるいは研究を行う予定の者（3）日本学術振興会特別研究員—PD でない者
3. 雇用期間：2003 年 11 月 1 日から 2004 年 3 月 31 日まで（最長 1 年間の雇用更新可）
4. 研究体制：東北大学大学院文学研究科内に設置される社会階層と不平等研究教育拠点において、事業推進担当者 1 名をアドバイザーとし、アドバイザーと研究の内容や方向性について協議しながら、自らの研究プロジェクトを進める。
5. 応募期限：平成 15 年 9 月 15 日必着

6. 照会先：〒 980-8576 仙台市青葉区川内
東北大学大学院文学研究科 社会階層と不平等研究
教育拠点 佐藤嘉倫
E-mail: ysato@sal.tohoku.ac.jp

☆ 相模女子大学学芸学部

1. 公募人員：講師又は助教授 1 名
2. 部署名：学芸学部 人間社会学科
3. 専門分野：社会系の心理学
4. 担当科目：現代社会と心理（コミュニティ心理）、
情報技法（社会調査）ほか
5. 採用予定時期：2004 年 4 月 1 日
6. 応募期限：2003 年 9 月 16 日（火）必着
7. 照会先：〒 228-8533 神奈川県相模原市文京 2-1-1
相模女子大学事務部 大学庶務課
Tel: 042-742-1411（内線 321）

☆ 名古屋市立大学大学院人間文化研究科

1. 所属：人間文化研究科
（人文社会学部現代社会学科）
2. 職名・人員：助教授または講師 1 名
3. 専門分野：ジェンダー論を専門とし、社会調査実
習を担当できること
4. 担当科目：学部の「ジェンダー論」「社会調査実習」
「演習」、関連する学部専門科目および教養教育科
目。将来、大学院教育も担当の予定。
5. 採用予定時期：2004 年 4 月 1 日
6. 応募期限：2003 年 9 月 16 日（火）
7. 照会先：〒 467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑
1 番地
名古屋市立大学人文社会学部事務室
Tel: 052-872-5808, Fax: 052-872-1531
人文社会学部現代社会学科ホームページ
<http://www.hum.nagoya-cu.ac.jp/gendai/>

☆ 九州大学大学院数理学研究院

1. 公募対象：社会数理講座担当教授 1 名
2. 採用予定日：平成 16 年 4 月 1 日以降のなるべく早
い時期
3. 研究分野：自然科学および社会科学における確率
現象や数理計画を取りあつかう数学、情報科学、統
計科学、計画数学、力学系等
4. 提出書類
（1）履歴書（2）研究業績リスト（印刷中、投稿
中のときはそのことを明記すること）（3）研究業
績の説明および将来の教育・研究計画（4）応募
者について問い合わせることのできる方 3 名の氏
名と連絡先。その中少なくとも 1 名の方には、推薦
状を応募期限までに下記宛にお送り下さいますよ
うご依頼下さい。（5）論文別刷り等（主要な論文
を 10 編程度）
5. 応募期限：平成 15 年 9 月 19 日（金）
6. 書類提出・照会先：
〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院数理学研究院
社会数理講座教授選考委員会委員長 小西貞則 宛
Tel: 092-642-2766
E-mail: konishi@math.kyushu-u.ac.jp
URL: [http://www.math.kyushu-u.ac.jp/gakufu/
index.html](http://www.math.kyushu-u.ac.jp/gakufu/index.html)

☆ 金城学院大学現代文化学部

1. 所属：現代文化学部・福祉社会学科
2. 職名・人員：助教授または専任講師 1 名
3. 専門分野：社会調査法が担当でき、なおかつ家族
社会学、地域社会学、企業社会論、比較福祉国家
論のいずれかの科目が担当できること。
4. 採用予定時期：2004 年 4 月 1 日
5. 応募期限：2003 年 9 月 30 日（火）
6. 照会先：〒 463-8521 名古屋市守山区大森 2-1723
福祉社会学科主任 山田知通
E-mail: fukushi@kinjo-u.ac.jp, Fax: 052-799-2196

☆ 統計数理研究所

1. 公募人員：文部科学教官 助教授 1 名
2. 所属：調査実験解析研究系 標本調査研究部門
3. 研究分野等：統計データの取得法と解析法の研究
（個別諸科学における具体的な問題を素材に、デー
タ取得や分析のための、実際の統計数理的方法
を研究・開発することに意欲のある方を広く求め
ています。たとえば、情報化時代の標本調査法、社
会調査や疫学調査等の方法、カテゴリカルデータ
の解析法、データマイニング等に関心のある方を
歓迎します。）
4. 採用予定時期：2003 年 12 月 1 日以降の早い時期
5. 応募期限：2003 年 9 月 30 日（火）必着
6. 照会先：〒 106-8569 東京都港区南麻布 4 丁目 6 番
7 号
統計数理研究所 管理部庶務課人事係
Tel: 03-5421-8707, Fax: 03-3443-3552
URL: <http://www.ism.ac.jp/>

☆ 岩手大学教育学部

1. 公募人員：教授又は助教授 1 名
2. 所属講座：学校教育講座
3. 専攻分野：心理学
4. 担当科目：（大学院）教育評価特論、教育評価特別
演習（学部）教育評価、心理測定（心理統計を含
む）、心理学実習、生涯発達心理学、心の科学
又は
（大学院）学校カウンセリング特論、学校カウ
ンセリング特別演習（学部）教育相談、カウ
ンセリング、心理学実習、生涯発達心理学、心の科学
5. 着任時期：2004 年 1 月 1 日
6. 応募期限：平成 15 年 10 月 31 日
7. 照会先：〒 020-8550 盛岡市上田 3 丁目 18-33
岩手大学教育学部 菅原正和
Tel & Fax: 019-621-6628
E-mail: sugawara@iwate-u.ac.jp
不在の場合は、教育学部総務係
Tel: 019-621-6504, Fax: 019-621-6600



会員の著書等

- ☆ 小口孝司・楠見 孝・今井芳昭（編著）『エミネント・ホワイトーホワイトカラーへの産業・組織心理学からの提言』北大路書房，2003 年。
 ☆ 小野寺孝義・狩野 裕（編著）『文科系の学生のための数学入門 1，2』ナカニシヤ出版，2003 年。

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

和文誌編集委員会では、審査プロセスの迅速化、省力化のため、今後、以下の方針で作業を進めたいと思っていますので、ご協力ください。

例えば、投稿論文の審査プロセスの迅速化を念頭におき、投稿者は編集委員会へ論文のハードコピーを 4 部提出することになっていたが、ハードコピー（少なくとも 1 セット）を郵送するとともに PC ファイルを電子メールに添えつけ提出することに御協力願います。審査過程も、メールの活用で迅速化したいと思っています。

投稿論文の内容の審査に関しては、重要な点に関して明白な数学的誤謬があったり、多重投稿やアイデアの優先権や著作権に問題がない限り、多少粗削りでも、どこかに時代の先端を切り拓く研究発展への萌芽を持っているものを歓迎したいと思います。また、新たなデータ採集や方法論の報告だけでなく、現状の広義の統計関連分野を批判して、新しい時代へ導く木鐸を鳴らす檄文も歓迎いたします。

論文送付先

〒 106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7
 文部科学省統計数理研究所内
 「行動計量学」編集委員長 吉野諒三
 e-mail: yoshino@ism.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒 152-8552 目黒区大岡山 2-12-1
 東京工業大学 大学院社会理工学研究科
 日本行動計量学会欧文誌編集委員長
 前川眞一
 e-mail: mayekawa@hum.titech.ac.jp

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒 113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
 学会センター C-21
 (財) 日本学会事務センター内
 日本行動計量学会係
 TEL : 03-5814-5810
 FAX : 03-5814-5825

日本行動計量学会会員数

(2003 年 7 月 9 日現在)

正会員	1046 名
準会員	91 名
名誉会員	5 名
賛助会員	18 社

日本行動計量学会 Web ページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/index.html>

第 31 回大会 Web ページ

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/bsj2003>

編集後記

皆様がこの号を読まれるのは、大会から戻られた後になっているかもしれませんが、第 31 回大会への参加をご検討中の方は、ぜひともご参加ください。

なお、前号に引き続きまして、新・組織検討委員会委員長と、広報担当からのご挨拶を掲載いたしました。今期もよろしくお願いいたします。

今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。

会報原稿送付先

皆様からの情報をお待ちしております。
 〒 274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1
 東邦大学理学部情報科学科
 菊地賢一 kikuchi@is.sci.toho-u.ac.jp
 TEL & FAX: 047-472-1182

題字：林知己夫

会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子